

エコアクション21

## 令和01年度環境活動レポート

対象期間 : 令和01年06月～令和02年05月

発行日 : 令和02年07月03日



## 目次

1. 組織の概要	3
2. 対象範囲、対象期間及び発行日	5
3. 環境方針	6
4. 環境目標（中長期）	7
5. 環境活動計画と評価	8
CO <sub>2</sub> ガス排出量削減（重油・軽油・電気使用量について）	
廃棄物削減	
水道水使用量削減	
化学物質の管理	
グリーン購入推進	
環境への配慮	
6. 環境目標と実績（当年度）	9
7. 取組結果と評価、次年度の取組内容	10
取組結果（過去2年間の実績含む）	
評価	
次年度の取組内容	
8. 環境関連法規制等の遵守状況	13
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	13

## 1. 事業活動の概要

### 1) 事業者名及び代表社名

事業者名 株式会社リバーケミカル  
代表社名 代表取締役 中田 敬子

### 2) 所在地

本社・工場 兵庫県神戸市北区道場町塩田山崎2636番地  
物流倉庫 兵庫県三田市東本庄字大歳谷2224番5

### 3) 環境管理の責任者及び担当者

責任者 代表取締役 中田 敬子  
担当者 環境管理責任者 小西 岳史  
連絡先 TEL: 078-985-2061 FAX: 078-985-3081

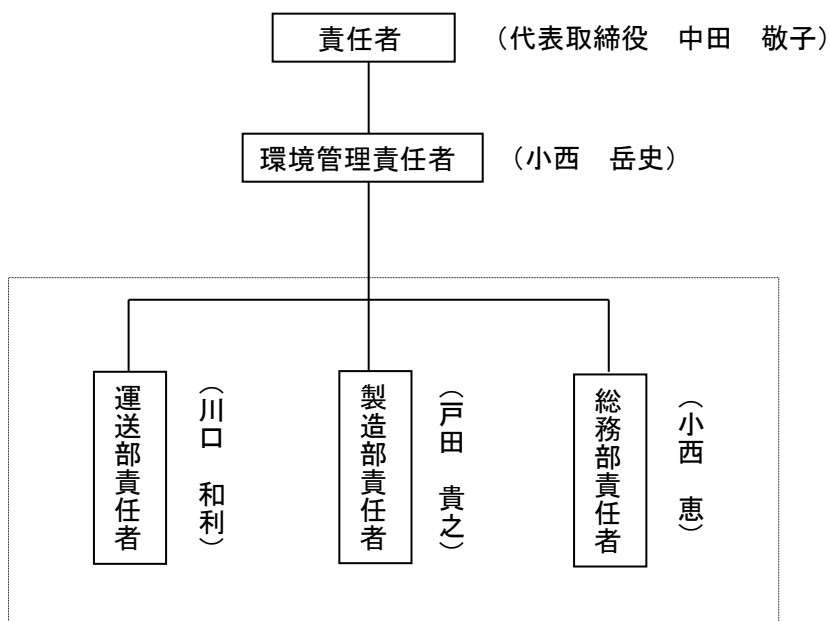
### 4) 事業の内容

廃油の再生加工及び販売、溶剤の小分けと販売、特別管理産業廃棄物収集運搬

### 5) 事業の規模

創立 昭和42年6月26日  
売上高 37,130万円  
資本金 1,000万円  
従業員 19名  
敷地面積 3,395㎡(本社工場)、2,378㎡(物流倉庫)

### 6) EA21実施体制組織図



7) 許可の内容

① 処分業

特別管理産業廃棄物処分業	
許可番号	神戸市 第6790003215号
許可年月日	平成30年5月31日
有効期限	平成35年5月30日
廃棄物の種類	廃油
事業の範囲	中間処理（蒸留再生）
処理施設の種類	ボイラー加熱による水蒸気蒸留及び単蒸留装置
処理能力	20t/日
処理料金	200Lドラム：4,000円～12,000円（廃液の性状による）
<p>処理工程図</p> <p>※沈殿残渣、蒸留残渣は廃棄物として処理委託 令和01年処理実績（1729t）</p>	

② 収集運搬業

・施設の概要：普通貨物自動車6台（8t×4台（タンク車1台含む）、4t×1台、2t×1台）

(I) ①特別管理産業廃棄物収集運搬業（令和01年度、主な収集運搬実績）

行政区分	許可の種類	許可番号	許可年月日	許可の有効期限	運搬実績
兵庫県	廃油	02863003215	平成30年07月01日	令和05年06月30日	757t
滋賀県	廃油	02551003215	平成30年07月22日	令和05年06月29日	147t
大阪府	廃油	02750003215	平成30年06月12日	令和05年05月19日	522t
愛媛県	廃油	3855003215	令和01年08月13日	令和06年08月12日	239t
京都府	廃油	02650003215	平成30年07月03日	令和05年06月24日	105t
山口県	廃油	03550003215	平成30年10月23日	令和05年10月22日	0t
香川県	廃油	03759003215	平成29年11月08日	令和04年10月28日	54t
徳島県	廃油	3650003215	平成30年02月14日	令和05年02月13日	115t
奈良県	廃油	02950003215	平成29年04月18日	令和04年04月17日	11t

合計1,950t

②特別管理産業廃棄物積替え・保管

積替え・保管場所：兵庫県三田市東本庄字大歳谷 2 2 2 4 番 5

積替え・保管を行う産業廃棄物の種類：廃油

積替え・保管面積：7. 60m<sup>2</sup>

積替え・保管上限：6. 80m<sup>3</sup>

(Ⅱ) 産業廃棄物収集運搬業（令和01年度、主な収集運搬実績）

行政区分	許可番号	許可年月日 許可の有効期限	許可の種類											運搬実績	
			汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック	紙くず	木くず	金属くず	繊維くず	ゴムくず	ガラスくず		がれき類
兵庫県	02808003215	令和01年06月22日	○	○	○	○	○	○	○	○					356 t
		令和06年06月21日													
京都府	02600003215	平成30年07月03日		○			○								2 t
		令和05年06月24日													
大阪府	02700003215	平成29年03月14日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	77 t
		令和04年03月13日													
滋賀県	02501003215	平成30年08月07日		○			○		○						17 t
		令和05年08月06日													
奈良県	02900003125	平成29年04月18日	○	○											2 t
		令和04年04月17日													

合計 454 t

2. 対象範囲、対象期間及び発行日

1) 対象範囲

エコアクション21対象範囲は全社とする。

2) 対象期間及び発行日

対象期間：令和01年06月～令和02年05月

発行日：令和02年07月03日

改訂日：令和02年11月19日

### 3. 環境方針

#### 【基本理念】

私たちは地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、環境負荷の少ない企業活動を行います。

#### 【基本方針】

(株)リバースケミカルは特別管理産業廃棄物（廃油）を再生加工し再利用化を促進することで、資源の有効利用、廃棄物の抑制、環境保全に配慮した環境管理を行います。

1. 当社の活動、製品、サービスに関わる環境側面を常に認識し、環境汚染の予防に努めます。
2. 方針遂行のため法規の要求事項、著しい環境側面、利害関係者の意見に基づき、環境目的・目標を設定し、その実現を図り定期的な見直しを行うことにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。
3. 定常時はもちろん事故等の緊急時においても環境関連法規、規制、協定等、受け入れたその他の要求事項を遵守し、技術的に可能な範囲で環境保全に取り組みます。
4. 環境マネジメントシステムの遂行において、環境負荷の抑制にあたり以下の項目に重点的に取り組みます。
  - ① CO<sub>2</sub>ガス排出量の削減（重油使用量の削減、省エネ等）
  - ② 受託した産業廃棄物の適正処理及び活動に伴う廃棄物の削減（汚泥等）
  - ③ 上水使用量（排水量）の削減
  - ④ 化学物質の適正管理
  - ⑤ グリーン購入の推進
  - ⑥ 受託した産業廃棄物の収集運搬における環境への配慮（運搬車両の燃費向上）
5. 環境教育訓練等を実施し、環境方針の理解と意識の向上を図ると共に取引先にも理解と協力を要請します。

2013年01月15日  
神戸市北区道場町塩田山崎2636番地  
株式会社リバースケミカル  
代表取締役社長 中田 敬子

#### 4. 環境目標

##### 1) 環境目標の設定対象

CO<sub>2</sub>ガス排出量や廃棄物は生産が増加すると増えるため生産量に対する比による設定を行った。

計算式は下記の通り。※生産量＝廃油から蒸留再生した油の量

##### ①CO<sub>2</sub>ガス排出量

生産に関わるCO<sub>2</sub>ガス排出量としてボイラー運転に使用される重油、運送に関わる軽油、電力について取り組む。

CO<sub>2</sub>ガス排出量／生産量

##### ②廃棄物の削減

廃油の蒸留再生時の残渣処理で発生する汚泥やその他の廃棄物削減について取り組む。

廃棄物発生量／生産量

##### ③上水使用量

ボイラー運転時に使用される水道水使用量やその他の洗浄水等の削減について取り組む

水道水使用量／生産量

##### 2) 環境目標(中長期)

平成20年度(平成20年6月～平成21年5月)の数値を基準として、下表の通りの目標値とした。

なお、受入原料中の高沸点物質含有量が改善しないため、削減率を固定した運用としている。

また、令和02年度実績をベースに基準の変更の検討を行う。

項目	平成20年度実績	平成30年度	令和01年度	令和02年度
CO <sub>2</sub> ガス排出量	CO <sub>2</sub> 量／生産量	平成20年度比 4.75%減	平成20年度比 4.75%減	平成20年度比 4.75%減
	242	230.5	230.5	230.5
廃棄物排出量	廃棄物／生産量	平成20年度比 7%減	平成20年度比 7%減	平成20年度比7% 減
	0.973	0.905	0.905	0.905
水道水使用量	水使用量／生産量	平成20年度比 10%減	平成20年度比 11%減	平成20年度比 12%減
	1.52	1.37	1.35	1.34
化学物質の管理	PRTR対象物質の 適正管理	PRTR対象物質の 適正管理	PRTR対象物質の 適正管理	PRTR対象物質の 適正管理
グリーン購入の推進		グリーン購入の推進	グリーン購入の推進	グリーン購入の推進
環境への配慮		運搬車両の環境負 荷低減への努力	運搬車両の環境負 荷低減への努力	運搬車両の環境負 荷低減への努力

## 5. 環境活動計画と評価

項目	対象	部署	取組内容	評価
CO <sub>2</sub> ガス排出量削減	重油	製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蒸気の無駄遣いを無くす 蒸気漏れの点検、修理を速やかに行う</li> <li>・ 生産性を向上して重油使用量を抑える ボイラーや配管等設備の点検を行い、設備トラブルを未然に防止する</li> </ul>	○
	軽油	運送	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイドリングストップの実施</li> <li>・ 急発進、急加速を自粛し適正シフトアップに努める</li> </ul>	○
	電気	製造 総務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不要な照明の消灯（使用しない部屋、休憩時の消灯）</li> <li>・ 不使用時のパソコン、プリンター、ポットの電源 OFF</li> </ul>	○
廃棄物削減	汚泥	製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汚泥として固めにくく嵩の高くなる蒸留残渣の発生する原料を特定し、原料としての使用を抑える</li> <li>・ 脱水工程時に発生する製品カット分の製品化による生産量のUPを図り、相対的な汚泥発生量の削減を行う</li> </ul>	○
	その他	全社	ドラム単位のもののは極力圧縮する	○
水道水使用量削減	上水	全社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蒸気漏れは直ちに修理を行い、無駄な蒸気を無くす</li> <li>・ 稼動していない時はドレンバルブを閉める</li> <li>・ 蛇口の閉め忘れをなくす</li> <li>・ 冬期は凍結対策を施す</li> <li>・ 車両洗淨時の洗淨水の節制を心がける</li> </ul>	○
化学物質の管理	化学物質	全社	適正な管理を行う	○
グリーン購入推進	—	全社	事務用品等再生品使用製品の購入	○
環境への配慮	—	運送	産業廃棄物収集運搬車両の環境負荷低減への努力を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイドリングストップの実施</li> <li>・ 急発進、急加速を自粛し適正シフトアップに努める</li> </ul>	○

### 評価欄について

- 計画通り実施出来た
- △ 一部不十分な面があった
- × 問題点があった



6. 環境目標と実績（当年度）

項目	内容	単位	平成20年度実績	令和1年度		
				目標	実績	達成率 (目標/実績)
	生産量(※1)	t	2,767	—	2,419	—
二酸化炭素	重油	kg-CO <sub>2</sub>	475,960	453,352	427,165	(106%)
		L	—		(157,647)	—
	軽油	kg-CO <sub>2</sub>	163,607	155,836	179,987	(158%)
		L	—		(68,584)	—
	電力(※2)	kg-CO <sub>2</sub>	29,764	28,350	26,532	(107%)
		kWh	—		(79,438)	—
	CO <sub>2</sub> ガス排出量	kg-CO <sub>2</sub>	669,331	637,538	633,684	(101%)
CO <sub>2</sub> 量/生産量	kg-CO <sub>2</sub> /t	242	230.5	262.0	88.0%	
産業廃棄物	廃棄物	t	2692	—	2689.7	—
	廃棄物/生産量	t / t	0.973	0.905	1.112	81.4%
水道水	水使用量	m <sup>3</sup>	4203	—	2903	—
	水使用量/生産量	m <sup>3</sup> / t	1.52	1.37	1.20	112.5%
化学物質の管理	PRTR対象物質の適正管理	—	—	PRTR対象物質の適正管理	○	○
グリーン購入	—	—	—	グリーン購入の推進	○	○
環境への配慮	—	—	—	運搬車両の環境負荷低減への努力	○	○

※1) 生産量=廃油から蒸留再生した油の量

※2) 購入電力調整後排出係数

関西電力(株) 0.366 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) (平成20年)

関西電力(株) 0.334 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh) (平成30年実績)

## 7. 取組結果と評価、次年度の取組内容

### 1) 取組み結果（過去2年間含む）

項目	内容	単位	平成20年度実績	目標	平成29年度	平成30年度	令和01年度
	生産量 ※1	t	2,767	—	2,653	2,569	2,419
二酸化炭素	重油	kg-CO <sub>2</sub>	475,960	—	450,378	440,198	427,165
	軽油	kg-CO <sub>2</sub>	163,607	—	191,759	186,506	179,987
	電力	kg-CO <sub>2</sub>	29,764	—	41,205	32,669	26,532
	CO <sub>2</sub> ガス排出量	kg-CO <sub>2</sub>	669,331	—	683,343	659,374	633,684
	CO <sub>2</sub> 量／生産量	kg-CO <sub>2</sub> /t	242	230.5	257.6	256.7	262.0
	評価					×	×
産業廃棄物	廃棄物	t	2,692	—	2,695.2	2,636.2	2,689.7
	廃棄物／生産量	t / t	0.973	0.905	1.016	1.026	1.112
	評価	—				×	×
水道水	水道水使用量	m <sup>3</sup>	4,203	—	2,910	2,851	2,903
	水使用量／生産量	m <sup>3</sup> / t	1.52	1.37	1.10	1.11	1.20
	評価	—				○	○

※1 生産量＝廃油から蒸留再生した油の量

## 2) 評価

### ①二酸化炭素排出量の削減

目標達成率は88.0%となり、未達であった。各工程での削減努力を続けているものの目標数値には届かなかった。

ここ数年、目標未達が続いている。これは低回収率しか得られない廃液の処理依頼量が増加傾向にあり、製品である混合溶剤に使用する回収油の収率低下の影響を受けて生産量が減少しているがその一方で蒸留時間は短縮できない状況が続いている為、重油使用量は収量の減少率ほど減少していない。軽油についても運送量は殆ど減らない状況であり、達成率としては下降傾向が続いている。

また、電力使用量については換算係数の変動により見かけ上昨年度より減少しているが、達成率の増加に影響を与えるほどではなかった。

なお、総体として取組計画に関する逸脱等は無く、引続き削減努力を行っていく。

### ②産業廃棄物の削減

目標達成率は81.4%となり、未達であった。

実施計画に従い取組んできたが、前述（①）の低回収率の原料廃液の使用量が増加していることから、蒸溜残液の固形化処理により発生する産業廃棄物の発生量が、昨年度よりも微増したにも関わらず分母となる生産量自体が減少した為、結果として産業廃棄物の達成率としては昨年度から悪化となった。

次年度も引き続いて、最低限現状維持を目指しつつ削減方法を探り、取り組んでいく。

### ③水道水使用量の削減

目標達成率は112.5%となっており達成率は昨年よりも悪化したが、取組期間中、問題点は特に無かった。

よって、計画通りの取組を続けていく。

### ④化学物質の管理

P R T R対象物質について、在庫量の把握を含めて適正に取り扱ってきており、逸脱は無かった。

### ⑤グリーン購入

グリーン購入の推進に努めた。

### ⑥産業廃棄物収集運搬における環境への配慮

収集運搬車両が与える環境への負荷低減として、各車両の燃費向上に努めた。

3) 次年度の取組内容

前述2) 項の通り、外的要因以外の原因で目標数値未達成にはなっていない為、取組み内容の変更は行わず今年度と同様に削減への努力を行っていく。

また、改元により令和01年～令和02年度と変更した。

二酸化炭素排出量、産業廃棄物の両項目については数値を据え置き、状況を観ていく事としている。

項目	内容	単位	平成20年度 (基準年)	平成30年度 (目標)	令和01年度 (目標)	令和02年度 (目標)
	(生産量 ※)	t	2,767	—	—	—
二酸化炭素	CO <sub>2</sub> ガス排出量	kg-CO <sub>2</sub>	669,331	平成20年度比 4.75%減	平成20年度比 4.75%減	平成20年度比 4.75%減
	CO <sub>2</sub> ガス排出量/生産量	kg-CO <sub>2</sub> /t	242	230.5	230.5	230.5
産業廃棄物	廃棄物発生量	t	2,692	平成20年度比 7%減	平成20年度比 7%減	平成20年度比 7%減
	廃棄物発生量/生産量	t/t	0.973	0.905	0.905	0.905
水使用量	水道水使用量	m <sup>3</sup>	4,203	平成20年度比 10%減	平成20年度比 11%減	平成20年度比 12%減
	水道水使用量/生産量	m <sup>3</sup> /t	1.52	1.37	1.35	1.34
化学物質の 管理	PRTP 対象物質の 適正管理	—	—	PRTP 対象物質 の適正管理	PRTP 対象物質 の適正管理	PRTP 対象物質 の適正管理
グリーン購入 の推進	—	—	—	グリーン購入の 推進	グリーン購入の 推進	グリーン購入の 推進
環境への配慮	—	—	—	運搬車両の 環境負荷 低減への努力	運搬車両の 環境負荷 低減への努力	運搬車両の 環境負荷 低減への努力

※ 生産量＝廃油から蒸留再生した油の量

## 8. 環境関連法規制への違反、訴訟等の有無

期間内を含め過去10年間、環境関連法規制への違反、並びに関係機関からの指摘、利害関係者からの苦情・訴訟はありませんでした。

なお、当社の事業活動に関連する主たる環境関連法規は下記の通りです。

	主たる環境関連法規の名称	評価
1	廃棄物処理および清掃に関する法律	○
2	騒音規制法	○
3	水質汚濁防止法	○
4	毒物および劇物取締法	○
5	消防法	○
6	神戸市との公害防止協定 (水質汚濁防止対策、騒音・振動防止対策、悪臭防止対策、産廃の受け入れ)	○

## 9. 代表者による評価と見直し

### 1) 評価

普段の取組みや報告を見るに環境活動についての取組みは的確に出来ているものと考えている。今年度は低回収率原料の加工依頼の割合が昨年度と同等で推移し、また混合溶剤用原料廃液の低収率化が進行した事で、生産量の減少に対する廃棄物発生量に関して厳しい状況が続いている。

コロナ禍の影響は4～5月の生産にも現れてきている。

全員でより一層協力して環境活動に取り組んで行って欲しい。

### 2) 見直し

環境方針は2017年版ガイドラインに従い対応していく。

次年度の目標についても二酸化炭素排出量及び廃棄物発生量については据え置いているが水道水使用量等も含め、しっかり取り組む事。

### 3) 指示事項

法律に関しては、昨年までと同様に関連法規も地域協定も逸脱することなく順守できているので、これをしっかり守っていく事。

また、目標の基準については令和02年度実績をベースに変更を検討していく事。

コロナ禍の影響も現れてきており、取引先の状況が即座に影響する当社にとって厳しい状況が続いていくものと思われる。昨年度までのフォローで得られた経験を活かし、引続き各々が生産効率の向上を目指し、環境負荷低減に努めて欲しい。